

病院医学教育研究助成成果報告書

(1) 研究題名

医療機器安全基礎講習会（第30回ME技術講習会）

(2) 研究組織等

研究組織の名称

医療安全管理委員会

研究責任者名

山口清次 医療安全管理室室長

共同研究者名

糸賀修也 材料部臨床工学技士

(3) 研究費及び研究費の用途

研究費

70

研究費の用途

交通費および研修会参加費用

(4) 目的及び方法、成果の内容

目 的

平成19年4月に施行された『改正医療法』では「病院の管理者は医療の安全を確保するための措置を講じなければならない」とされ、『医療法施行規則』で「医療機器の安全使用のための責任者の配置」と「医療機器の安全使用のための研修の実施」が定められた。

現在本院には専属ではないが1名の臨床工学技士が医療機器管理を行っているが、今までの機器管理業務に加え、機器の安全管理業務を行なう事により業務内容は今まで以上の知識を要求される事になるため下記の目的で講習会に参加した。

- a) 日々進歩する技術革新に対応し、医療機器を安全に使用するための基礎知識を取り入れ、「トラブルと対策」「日常点検」を学び、医療機器の誤操作によるヒヤリハットや医療事故を未然に防ぐ。
- b) 医療現場での教育・啓蒙活動を通じて医療機器の安全管理技術を向

上させ患者の安全に貢献すること。

c) 医療機器安全管理責任者の業務内容を把握する事。

方 法

日本生体医工学会（旧：日本エム・イー学会）は、昭和53年よりME技術講習会を開催し、平成8年より『安全』をキーワードに「医療現場における医療従事者のME機器教育」をモットーとして開催している。

長年に渡る豊富な経験を有する医療機器のパイオニア的存在である当学会が開催する医療機器の安全管理のための講習会を受講した。

医療機器を安全に扱うための電気の基礎知識

医療機器を安全に扱うための医療ガスの基礎知識

人工呼吸器のトラブル事例と対策

輸液ポンプのトラブル事例と対策

医療機器安全管理責任者の説明含む医療機器安全管理の実際

成 果

(1) 機器トラブルは、機器本体のトラブルよりも機器を扱う人間のヒューマンエラーによるトラブルが多数を占めている。

トラブルは冷静に考えれば絶対にありえなさそうな原因で発生している。なぜトラブルが発生するのか。

トラブルを発生させないための対策をどうするのか。

臨床工学技士は医療機器管理のスペシャリストとしてこれらの問題を、施設全職員と共に考えなければならない。

医療ガス管理については臨床工学技士の業務には直接関係は無いが、人工呼吸器を管理する上では医療ガスの安全操作方法やトラブル対策も必要な知識となる。

(2) 山口清次医療機器安全管理責任者の下、医療安全管理室と共同で「医療機器の安全使用のための研修会を開催するに至った。

人工呼吸器

病院全職員を対象として研修会を開催した。

呼吸器に関しては実技をふくめた少数対象の研修会を複数回開催する方が実践向けの研修会になるのではないだろうか。

保育器

NICUおよび3階西病棟（小児科病棟）と3階東病棟（産科・婦人科病棟）勤務の医師と看護師を対象として研修会を開催した。

保育器の研修会はあらかじめ各人が平素より疑問に思う事を前もって

聞いておきその質問に対して質疑応答の形式としたので個人の疑問が全体の疑問として反映されたのではないかと感じた。

除細動器

病院全職員を対象として研修会を開催した。

除細動器は医師しか使用出来ないが、A E Dは誰にでも使用出来るので、除細動器とA E Dを関連付けた研修会も必要なのかもしれないと思われる。

人工心肺

病院全職員を対象（主として集中治療部・手術部勤務の医師と看護師および臨床工学技士）を対象として研修会を開催した。

血液浄化

集中治療部勤務の看護師および臨床工学技士を対象として研修会を開催した。